

古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」第1回 報告書

開催日 第4土曜日 2018年9月22日(土) 9時半～11時

開催場所 中日本建設コンサルタント(株) 東京支社会議室(四ツ谷)

参加者 5名(全て会員)

内 容

(1)参加者自己紹介

(2)趣旨説明(リーダー)

いろいろな場面で人生の進む道を判断するときの心の拠り所が欲しいと思い、阿部先生の新釈古事記伝に行き着いた。たまたま、その頃にセメント新聞の「あぐる」という一面コラム欄4回の寄稿を依頼され、古事記を題材に「袋背負いの心」「弥栄の心」「あかいだき」「受け日」を発表。会員の自主的な発案により読書会を企画。土木技術者女性の会の東日本支部の活動として参加者募集などのご支援をいただけることになった。

(3)朗読

阿部國治著・栗山要編「新釈古事記伝 第1集 袋背負いの心」の、著者まえがき、現代語訳文、著者あとがきの部分を、車座になり全員で順番に輪読。約1時間で、稲葉の白兔～嫁とり競争～袋背負いの心～弥栄の心、を読破。

(4)読後感

- お話に出てくる大国主命は「沢山の人の荷物を背負うことを喜びとすること」を知り、小さなことからでも、見返りを求めずに人のためになることをしたいと思いました。お話を思い出すと、じんわりと優しい気持ちになれます。
- 古事記をきちんと読んでみたいと思っておりましたところ、ちょうどよい機会をいただき参加いたしました。大人になって、声に出して本を読むことがなく、なかなかエネルギーも必要でしたが、皆で読み繋いで、感想を語り合うことは楽しく、元気をいただきました。また、時間があいますときにはぜひ参加していつもと違う場に身を置きたいと思います。
- 先日はありがとうございました。みなさんの心の深い部分を感じることができたように思います。思い出すと心が温まり、励まされます。お話しそのものも素晴らしいのですが、このような集まりに参加できたこと自体が幸せです。「袋背負いの心」の意味を知ることができ、過去の偉人達の行動の源がわかったように思いました。身近な人でもその心を持って行動しているんだろうな、と思える人がいます。大和魂の本当の意味もわかり、それが日本人に受け継がれているのであれば、とても嬉しいです。阿部先生は、明治の時代にあっても、偏見のない平らかな心を持って、過去から未来を見通す明るい目をお持ちの方だと思いました。
- 朗読した文章の一言一言が心に染み入りました。参加者の年代の幅が広く、互いの感想の共有が楽しかったです。次回の、朗読会がとても楽しみです。

次回予定 2018年10月20日(土)9時半～11時@中日本建設コンサルタント(株)会議室

以上